

畑地性カラーの多収性品種におけるジベレリン茎葉散布処理の増収効果

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

花き—カラー—生育調節

2 担当者

大竹真紀・星佳織・堀越紀夫・鈴木美枝

3 要旨

カラーのジベレリン処理には生育促進を目的とする茎葉散布の登録があるが、増収効果や栽培品種の変化に対応した知見がない。畑地性カラーの多収性品種の再利用球を用いた栽培では、ジベレリンの茎葉散布は収量や切り花長の向上に有効であった。

- (1) 5月定植の夏切り栽培において、植え付け前にジベレリンの球根浸漬を行わなくとも、定植約1ヶ月後の花茎伸長期にジベレリンを茎葉散布すると採花本数が増加し、切り花長が伸びた(図1)。
- (2) 夏切り栽培においてジベレリンの茎葉散布を行った球根は、肥大が劣った(表1)。
- (3) 7月定植の秋切り栽培において、植え付け前にジベレリンの球根浸漬を行った株に、定植1ヶ月後にジベレリンを茎葉散布すると採花前半の花茎が伸長した(図2)。

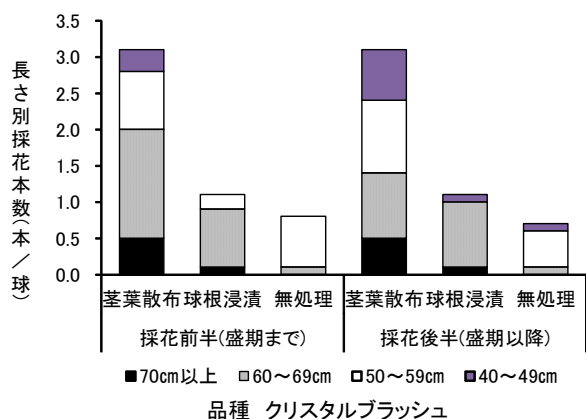
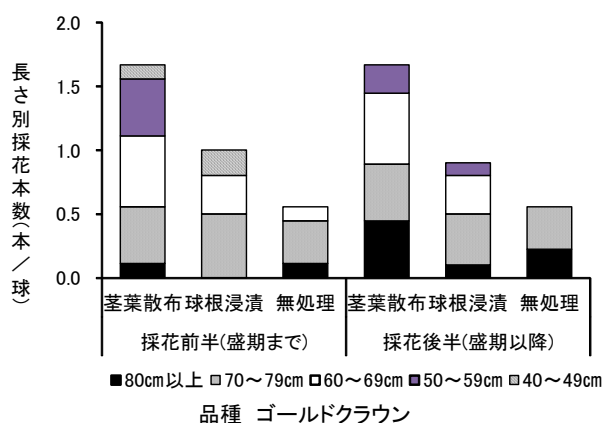


図1 夏切り栽培のジベレリン処理と長さ別採花本数

表1 夏切り栽培のジベレリン処理方法と球根の肥大状況

品種	処理方法	掘上球根重 (g/球)	球根肥大率 (%) ¹⁾
ゴールドクラウン	茎葉散布	131.0 b	221
	球根浸漬	200.6 ab	337
	無処理	270.7 a	458
クリスタルブラッシュ	茎葉散布	57.0 b	152
	球根浸漬	175.4 a	475
	無処理	112.3 ab	304

*同一品種においてTukeyの多重比較により、異符号間に5%水準で有意差あり。

1) 球根肥大率: 掘上風乾後の重量/定植時の重量×100

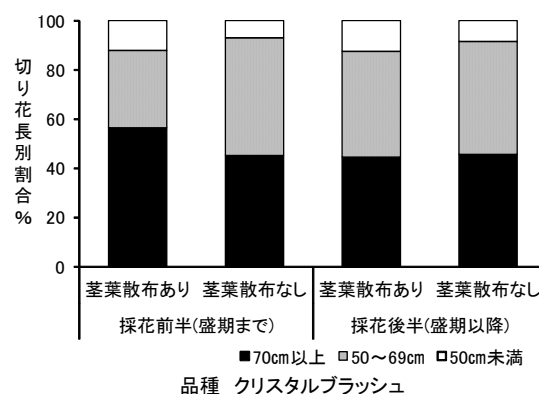


図2 秋切り栽培のジベレリン茎葉散布と長さ別割合

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成25年度～26年度、28年度
- (2) 研究課題名 会津地域の特色を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立 畑地性カラーの低コスト栽培体系の確立 畑地性カラーの多収栽培技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)